



KPUNews



理事長就任にあたって

れいじ

京都薬科大学理事長 武田 禮二

東日本大震災で被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

この度、田村前理事長の後任として選任され、5月30日付で本学の理事長に就任いたしました。

私は1967年3月に本学を卒業後、財団法人の研究所で約20年間の研究職を経て製薬会社に転職いたしました。会社では研究からライセンス等の業務に約20年間従事し、2004年に役員を退任後、顧問として財団法人で研究助成事業を行っています。

本学には卒業後、硬式野球部のOB会に10年近く参加していたのを最後に殆ど無縁の状態でしたので本学の情報は京薬会誌を通してのみ入ってまいりました。その後、2005年に滝野元理事長から本学の理事を務めるよう要請がありました。お世話になった母校のために少しでもお役に立てればとお引受けしました結果、2期6年間務めることになりました。この間、田村前理事長と中期計画“躬行プラン”の策定をご一緒させていただきました。策定前には多くの教職員の方々と話をする機会も得、大学の一端を垣間見ることができました。

近年、滝野、田村元理事長により本格的に6年制薬学教育体制の充実を目指した種々の環境作りが進められてきました。その結果、私たちの学んだ当時の学舎が何一つ残っていないのは残念ですが、ほぼ全

学舎がリニューアルされ、学生にとっては快適に学べる学園になってまいりました。特に前任の田村理事長は“躬行プラン”に基づく改革や新制度の導入等を積極的に推進され、魅力ある大学作りに取り組みされました。

本年度は6年制の完成年度となっており、真価を問われるのはこれからです。如何に、本学として専門性やクオリティを上げるか、医療現場で求められる薬剤師を育成していくか、国家試験の合格率を上げるか、また、一方では大学院生が減少していく中、最先端で質の高い研究レベルを維持していくのか等など本学の付加価値を高める取り組みが大切になってまいります。今後は“仏造って魂入れず”にならないよう、建て屋に負けないソフト（教育や研究等）の充実が必要となってまいります。乾学長と常に意思の疎通を図り、連携を強化し、更に教職員の皆様のご協力のもと、ナンバーワンの薬科大学を目指すための運営をしっかりと行うと共に躬行プランの達成およびそれに続く第二期中期計画を推進してまいります。まだまだ未熟者ですが皆様方のお力添えを賜り、任期を全うしたいと思っております。

皆様方には今後も変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS

理事長就任にあたって 理事長 武田 禮二	1	クラブだより	14
就任のご挨拶	2~4	2012年度 学部入学試験概要	15
新任のご挨拶	4	2012年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考概要	16
特集 中央庭園完成！	5~8	平成23年度科学研究費補助金 採択状況	17~18
2011年度「京薬祭」の開催に向けて	9	Library News	18
卒業生からのメッセージ	9	お知らせ	19
平成22年度決算について	10~11	京薬会だより	19
2010年度授業評価集計結果の報告	12	東日本大震災の被災者への支援について	20
2011年度 試験関係日程	13~14	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録	20

就任のご挨拶



副学長・研究科長
竹内 孝治

研究科長として3期目を担当させて頂くことになりました。今年は薬学6年制の完成年度であり、来春には6年制学部を基礎とする新たな大学院が始まります。大学院に於ける研究活動は、教育と研究を両輪とする本学の根幹を支えるものであり、6年制学部のみを有する薬科大学としての新たな軌跡を残して行かなければなりません。研究科としても、この大学院を充実させるために万全の体制で臨みます。学長の御指導を仰ぎながら、職務の遂行に精一杯取り組む所存ですので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

この機会に、新たな大学院の概要について紹介したいと思います。この大学院は6年制薬学部を基礎とする4年制の薬学専攻博士課程であり、入学対象者は6年制薬学部卒業生および薬剤師資格を有する実務経験2年以上の旧4年制薬学部卒業生です。この課程においては臨床薬剤師の育成を最重要課題と位置付け、“臨床薬学コース”を設け薬剤師としてチーム医療を実践すると共に、症例に基づいた臨床薬学研究を展開することによって“pharmacist scientist”の養成を可能とするシステムとなっています。勿論、臨床薬学研究の遂行には基礎薬学における高度の専門的な学識や研究能力が要求されることもあり、また学生の将来的な進路に幅を持たせる意味に於いても、本課程では“基礎薬学コース”も設け、様々な薬学の分野で高度の専門的な学識や研究能力を身につけ、国際的に貢献出来る有為な人材も育成します。

学生は特論講義で博士課程の学生が身に付けるべき専門知識を修得するとともに、いずれかのコースを選択し、課題研究を進める中で臨床薬学のエキスパートあるいは基礎薬学研究者としての自立を目指します。“臨床薬学コース”では、近隣の大学病院及び地域中核病院と連携し、医療現場での実践的な教育・研究を行いながら、薬剤師として病院薬剤部をベースに診療科病棟などで1～2年間チーム医療を実践します。また、病院薬剤部や医局において特定の症例に関する臨床薬学的な研究や臨床と基礎の橋渡しとなるトランスレーショナル研究を所属分野との共同で実施します。加えて、本コースは薬剤師の地位向上のためにも必須である専門薬剤師の養成支援という一面も備えています。専門薬剤師の資格取

得には、臨床実務経験に加えて、学会発表および論文発表が必要ですが、病院薬剤部での研修は臨床実務経験として単位化され、また課題研究の学会発表や論文文化を通じてプレゼンテーション能力および論文作成能力が培われます。一方、“基礎薬学コース”は原則として分野内で課題研究を進めるものであり、特論講義で専門的知識を修得するとともに、各分野での課題研究を通じて、高度な問題発見・解決能力および研究力を身につけます。

臨床の現場で医師と対等に対話の出来る薬剤師には、今後、博士号が必要になると思われます。また、大学や研究所で基礎研究を行うにしても、企業で創薬研究を行うにしても、独創性豊かな研究を円滑に遂行するためには博士号が必須です。6年制薬学を卒業した人も、出来るだけ大学院に進学し、研究能力を備えた医療人、次世代創薬を担う研究者、さらには6年制薬学の将来を担う大学教員などに育ってもらいたいと思います。



副学長・教務部長
後藤 直正

2年間の1期目を終了し、さらにもう2年教務部長を務めることになりました。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

教務部長としての前任の2年間で一番記憶に残ることは2年前の4年次におけるCBTのための準備です。当初、CBTは特別な勉強をしなくとも80%以上の学生が合格するレベルの問題だと言われていました。そのことから、4年次の前期ではCBTのための準備に関する指導も甘く、また学生もほとんど準備もしていない状況でした。その状況での6月模擬試験は、みごとに惨憺たる結果でした。準備していないのですから当たり前と言えば当たり前です。一度学んだことを持続的に記憶・理解していることを期待することが間違いで、何度も同じことをやらないと身につかないことは、学問領域だけのことではありません。その指導をしなかった私たちの怠慢以外なものでもないことで、このままであれば、悲惨なCBT本試験の結果がと脳裏をよぎりました。そこで、学生に周知していた計画を無理を承知で白紙に戻し、法人側の多大な協力のもと、新しい計画を立てました。これに関しては多数の職員にご迷惑をかけました。その当時のアンケートに「私たちはマウスか!」という学生からの厳しいコメントがありましたが、計画修正という不手際がそれを書かせた一因であったことは否めません。大いに反省致します。しかし、新しい計画の実行は勉強せねばという学

生の自覚を促すとともに、職員のなんとかして盛り上げようという意識の向上にもつながりました。CBT対策講習会が終了しても、自習室は満員で、夜8時の閉室後に連なって帰宅する学生の姿を連日目にしました。空き時間も勉強する学生も珍しくありませんでした。変化は学生だけのことでなく、多くの職員が学生のCBT学習を支援するようになりました。こうして1期生は12月の全国統一模試では全国でトップクラスへ躍進し、CBT試験では全員合格という結果を生み出しました。1期生の猛勉強の姿は、やるべきときがきたら集中して対処する本学の学生の気風を示すもので、ホッとすると感動さえ覚えるものであります。

初めてのことばかりで、砕氷船のような1期生の皆さんが荒涼とした氷の海に作った見事なルートを次の2期生が、3期生が、と続いて行きます。1期生の皆さんは後輩たちのために良き一步を作られました。来春の薬剤師国家試験にも成功してほしいものと期待しております。新しいルートが拓かれましたなら、それに後輩は続くでしょう。決して、皆さんはマウスではなく、良き伝統を作る馬力のある砕氷船です。新しいルートを作ることは1期生だからできることで、このときに巡り合えたからこそできることなのだという喜びを感じてほしいものです。

先に書きました惨憺たる結果は1期生を奮起させたばかりではなく、私たち職員の意識変革をももたらしたと感じております。来年、1期生が笑顔で春を迎えられますよう、担当科目での薫陶のみならず、薬学演習・薬学特別演習でもご支援戴けますようお願い致します。



学 生 部 長

北 出 達 也

本年5月より濱崎先生の後任として学生部長を担当する事になりました。学生課は学生生活全般にわたり幅広く支援する事が主な業務ですが、それと共に学生の皆さん方が機能する社会人になるために良識ある大人として成長する過程、すなわち人格形成に関しても支援する課であると考えています。学生の間に十分な知識を習得する事は大切な事ですが、単に知識を身につけるだけでは社会に貢献し活躍する事はできません。知識の習得と共に社会で認められる人格を形成する事が非常に大切な事です。人格形成のためには、クラブ活動に参加したり、多くの人と付き合って議論を交わしたり、人と関わりながら色々な困難を乗り越える経験を積む事が大切です。多くの場合、学生の皆さん方は自らの力で何とかし

て多種多様な困難を乗り越え、そして成長していくでしょう。でも、どうしても自らの力だけでは解決できない時があるかも知れません。このような時は、分野主任や学生相談員だけではなく、是非学生課もある事を思い出して下さい。そして、一人で悩む事なく気軽に学生課に相談に来て下さい。一緒に悩み考えそして解決できるように、また皆さん方がそのような困難を乗り越える事が出来るように、学生課はいつでも支援します。それからもうひとつ、学生の皆さん方が、大人または成人としての自覚と責任感が欠如している行動をとっているのを見かけたり、また色々なルールを守る事ができていないと感じたりする事が時々あります。責任ある行動やルールの順守は人としての基本ですから、職員は時には毅然とした態度で注意をします。決して見て見ぬふりをする様な無関心な事はしません。このような時は、これは皆さん方に対する愛情の証しだと理解して、素直に受け止め改めるべきは改めるように心がけて下さい。まだまだ駆け出したところの私ですから至らない点があると思います。職員の方々や学生の皆さん方から色々と教えて頂きながら勉強し私も成長しますので宜しくお願いいたします。



進路支援部長

安 井 裕 之

本年5月より山本昌先生の後任として進路支援部長を担当することになりました。6年制の薬学教育課程で学んだ最初の1期生が進路や就職先を決定する大切な時期に役職を担うこととなり、責任の重大さを感じております。進路支援課のお仕事にかかわらせて頂くのは今回が初めてです。最初は不慣れな面があるかと思いますが、奮励努力いたす所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。

これまで、本学の4年制学部を卒業された学生諸君は製薬企業、病院、薬局、公務員などの多様な職種に就職される、あるいは大学院へ進学されてきました。学生諸君が進路や就職について考える際に有益な情報やアドバイスを提供し、進路や就職に関する活動を全面的にサポートすることが進路支援課の役割です。そのために、本学の進路支援課は、各分野主任の先生方とも緊密な連絡を取ることを心掛けています。4年制の時とは異なる職種への就職希望、あるいは採用試験の内容や時期の変更など、6年制の導入により学生諸君の指向性や社会情勢が変化してきています。これらに対しても、進路支援課はきちんと対応していきます。採用の詳細については、これ

までよりも正確な情報収集に努めます。

具体的な支援活動は、求人情報の提供、2年次生から4年次生にかけて開催する進路ガイダンス（マナー講座、自己分析、ルール徹底、外部講師による職種説明など）、5年次生対象の進路支援セミナー（業種毎の説明会、グループディスカッション対策）および学内合同企業説明会（製薬企業、薬局）の開催、窓口での個別相談・面談、模擬面接、能力・適性検査の実施、インターンシップの紹介などです。このように、進路決定や就職活動に役立つ多くのサポート体制がありますので、これらを活用しない手はありません。是非とも積極的に進路支援課を訪れて下さい。希望する就職先の情報を収集するとともに、進路について悩みや迷いがある時には進路支援課の職員の方々に相談して欲しいと思います。

進路決定や就職に関して、最後に私からも一つだけアドバイスをしたいと思います。それは、皆さんが自分の将来の夢、その夢を達成した自分の姿をイメージすることです。夢を実現するためには、道程のステップや成功のスキームを自分でしっかり把握しなければなりません。そうすることで、自分自身が今何をすべきかがわかってきます。簡単なことですが、希望・目標・やってみたい事・〇〇になりたい・〇〇を成功させたいなどを具体的にリストアップして、これらをいつ頃に完遂したいかを考えて「自分の未来年表（19～55歳頃まで）」を作ってみてください。進路決定や就職試験に必ず役立つと思います。

2011年度KPUnews編集委員は下記の皆さんにご協力をお願いすることとなりました。

＜委員長＞

秋澤 雅男（教 授）

＜委員（教育職員）＞

抱 喜久雄（教 授）

北出 達也（教 授）

高山 明（教 授）

藤原 洋一（准教授）

長谷井友尋（助 教）

鳥羽 裕恵（助 教）

＜委員（事務職員）＞

山下 豊彦（庶務課長兼
企画・広報課長）

井本富美代（進路支援課）

＜委員（学生）＞

原田 弘毅（3年次）

穴井 美玖（3年次）

樋口 裕（2年次）

新任のご挨拶



創薬科学系

薬品化学分野

教授 赤路 健一

本年4月1日付で薬品化学分野に着任いたしました。私は昭和53年京都大学薬学部を卒業後同大学院に進学、昭和55年より助手として京都大学薬学部勤務いたしました。その後米国FDA研究所（NIHキャンパス内）への留学をはさみ、平成元年2月より本学薬品化学教室助教授として平成11年1月まで勤務しておりました。平成11年から大阪大学蛋白質研究所に5年間勤務したのち、本年3月まで京都府立医科大学医学研究科教授として教育・研究に携わってまいりました。このたび、12年ぶりに本学に迎えていただくことになりました。木曾先生が築かれた薬品化学研究室の活力を損なうことなく、新たなステージを築く重い責任をひしひしと感じております。

私は、有機合成化学を基盤とする医薬品化学研究を主たる研究テーマとしております。本学に助教授としてお世話になっておりました頃は、異常アミノ酸などを含む生理活性分子の立体選択的合成と作用機序解明のための構造活性相関研究を行っておりました。最近、医薬品の標的となる蛋白質との複合体構造解析に基づき、本来の基質構造から非ペプチド構造への変換を試みています。論理的で汎用性のある方法論のもと、酵素やレセプターが認識するペプチド配列を非ペプチド骨格へ転換する創薬手法の開発が目的です。

私が最初に本学にお世話になっておりました時の4年制薬学教育システムは6年制に変わり、この新しい体制のもと本学の諸施設も一新されております。現在の状況をできる限り正確に把握すべくリハビリ中の身ではありますが、職能教育と研究活力を両立させる難しさは医学部である程度経験できたと思っております。本学の優れた学生さんと面目一新の設備を大きな力として、この難題の解決に少しでも貢献できればと思っております。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特 集

中央庭園完成！

2011年3月に中央庭園整備工事は、学生・職員皆様のご協力のもとに、無事竣工しました。

中央庭園は平安京の条坊制を、また賀茂川と高野川を上流とする鴨川をインターロッキングのグリッドで表現し、御所の森を植栽で配置しています。

その中で京都薬科大学の発祥の地である、「京都私立独逸学校」をシンボルツリーで表し、周囲にはモニュメントで京都薬科大学の歴史も解説しています。

プラクティテラスとソフィアテラスは、授業の空いた時間や放課後の仲間同士での語らいながらの勉強や団らんスペースに、またプラクティテラスは京薬祭の時にはステージとして利用できる施設としています。

中央庭園の植栽は、薬効のある樹木・草花を中心に、四季が感じられる配置としています。学生の皆さんは時間を作って、薬効のある12科目・21種類を探してみてください。

中央庭園地下部分には、環境に配慮し「雨水再利用水槽」を設置し、年間1600m³の散水と灌水をまかなっています。



■設計コンセプト

愛学館（2005年）、臨床薬学教育研究センター（2007年）、躬行館（2010年）の竣工に続く今回の中央庭園整備は、創立120年を迎え、薬学系大学ナンバーワンを目指す本学のキャンパス・リニューアル事業の総仕上げに当たります。

キャンパスの屋外空間は、校舎と同等に大切な学生たちの活動空間であり、大学の魅力や印象を決める景観要素でもあります。とりわけ2006年の薬学部6年制スタートにより、薬学を学ぶ学生にとって、大学キャンパスは長い時間を過ごす生活の場としてますます重要性を増しています。学生たちが休憩時間になれば思い思いのスポットに出て語らい、くつろげる憩いの場として、また、卒業後は、本学で過ごした6年間をその景観とともに思い出すような庭園づくりが目標になりました。

旧校舎の建て替えによって本校地の中央に誕生した細長い形状のスペースは、主要校舎群に対して大きく開かれ、東西には山紫水明の名にふさわしい山科の山並みが遠望できる、優れたポテンシャルを備えた空間です。そこで、この場のポテンシャルを最大限に活かすため、以下の3つの方針によりランドスケープデザインの骨格を構成しました。

『学生たちの居場所をうみだす空間づくり』
『キャンパスの四季が感じられる緑の配置』
『京都薬大のアイデンティティを感じる場』

この中央庭園の完成によって、校舎と屋外空間との間を学生たちが楽しげに行き交い、そのにぎわいが常に感じられるような憩いの場として、魅力的なキャンパスになっていくことが期待されます。

■整備内容

整備面積		4,676.00㎡	
建築物	プラクティテラス	鉄骨造	140.95㎡
	ソフィアテラス	鉄骨造	173.71㎡
	喫煙シェルター	鉄骨造	20.58㎡
	雨水再利用水槽ポンプ室	R C造	11.18㎡
着工年月日		2010年11月26日	
竣工年月日		2011年 3月15日	
設計・監理		株式会社 類設計室	
施 工		株式会社 大林組	

■学生たちの居場所を生み出す空間づくり

中央庭園を囲む既存の校舎との連携を考慮して、愛学館に面した庭園西側はにぎわいある空間づくり、図書館棟に面した東側は落ち着いた空間づくりを意識しながら、日常やイベント時の学生の居場所や活動の場を整備しました。

中でも今回の特色は、細長い中央庭園の東西に配置した2つの半屋外空間「プラクティテラス」と「ソフィアテラス」です。

①プラクティテラス



『プラクティテラス』は、京薬祭やクラブのイベント時に利用できる円形の半屋外ステージです。直径約13mの円形ステージと屋根を6本の丸柱で支え、3方のガラスブロックとコンクリートの衝立で舞台を構成、観客席側となる庭園中央（東）側には、芝生の客席スペースをしつらえています。

ステージは、日常的な利用のしやすさにも配慮して40センチの高さとし、西側のコンクリートの衝立の内側には、クラブ活動や屋外演習などで板書を使えるよう、ホワイトボードが埋め込まれています。

②ソフィアテラス

『ソフィアテラス』は、図書館棟から張り出した長方形の半屋外空間で、授業の空いた時間や放課後に、仲間と語らいながら勉強できるスペースです。

北側と東側を植栽で囲んだライトコート風の演出で、落ち着いた学習できる空間をうみだしました。

また、テラス内から見える植栽は、戦国時代から民間療法で使われてきたメグスリノキや、樹皮の成分が解熱・利尿効果をもち野球のバットの材料としても知られるアオダモ、急性胃腸カタルや脚気その他、咳や痰を抑える効果のあるクロモジなど、薬効のある樹木を中心に構成し、薬学の歴史の原点を感じられるものとなりました。



■キャンパスの四季が感じられる緑の配置

庭園内の開放感や学生の居場所を確保しながら、各所で季節が感じられるような緑の樹種を選定し、卒業式、入学式などでの撮影スポットにもなるようなまとまった植栽スペースを計画しました。

正門から愛学館、躬行館の間をって中央庭園に出ると、校舎の2階ほどの高さがあるシンボルツリーのアメリカフウがまず目に入ります。アメリカフウは、別名モミジバフウとも呼ばれる樹形の綺麗な落葉高木で、秋にはモミジに似た5～7裂の葉が橙から赤に美しく紅葉することが知られています。



シンボルツリーの周囲や臨床薬学教育研究センターの前プラクティテラスの周囲には、常緑高木のレイランディー（レイランドヒノキ）を配置し、中庭全体の景観にリズムを与えています。

庭園中央部には、まとまった植栽スペースを整備しました。ここには、ヤマボウシやソメイヨシノ、モモノキ、クスなど、春～初夏にかけて白や桃色の花をつける山の木を植え、植栽スペースを囲むようにベンチを並べて、学生たちの憩いの場としました。



■京都薬大のアイデンティティを感じる場

中央庭園全体のペイブメントには京都の市街地に見立てたデザインが施されています。条坊制をモチーフにしたグリッドパターンの上に、中央庭園の西側を上流、東側を下流として、賀茂川と高野川が合流して市内を下る鴨川を形どった文様を描いています。また、シンボルツリーを中心に同心円状に広がる波紋のパターンは、京都を拠点に世界へ飛躍する本学の姿を表現しています（次頁参照）。

庭園内の随所には、学生たちが本学の歴史を通じ自らの大学のアイデンティティを意識できるよう、本学が開校してから現在までの軌跡を記した陶製やステンレス製の写真入りサインを配置しました。

『プラクティテラス』北側壁面には、本学の前身である京都私立独逸学校の設立に由来の深いルドルフ・レーマン博士の肖像とプロフィールをステンレスサインで設置し、本学のルーツを表現しました。



また、レーマン博士の門下生たち18名が設立した京都私立独逸学校（1884年）、薬学に特化した私立京都薬学校（1892年）、専門学校令により京都薬学専門学校（1919年）の歴史を示す陶板タイルを、京都市街地に見立てた中央庭園の中で、それぞれの学校の所在地に当たる場所の床に埋め込みしています。さらに、シンボルツリーを囲んで、私立京都薬学校時代から戦後の新制大学への移行、薬学部6年制が施行された2005年までの主な出来事を8枚の写真入りのステンレスサインで綴っています。



■中央庭園テラスの名称決定表彰式

中央庭園に設置される2つのテラスの名称を本学学生・職員を対象に募集いたしました。多数の応募の中から、躬行館の図書館棟前のテラスはソフィアテラス、愛学館食堂前のテラスはプラクティテラスと決定いたしました。提案した学生等を対象に、2011年3月24日（木）に表彰式を行い、受賞者には、田村理事長から表彰状ならびに副賞（図書カード）が贈呈されました。

【テラス名の由来】

ソフィアテラス：本学の建学精神である「愛学躬行 - Philosophia et Praktikos - 」の「愛学 - philosophia - 」から引用。ソフィア(sophia)だけではギリシア語で「知恵」を意味するのだが、傍らの愛学館(知恵・学を愛する者の学舎)の精神を思い命名。

プラクティテラス：本学の建学精神である「愛学躬行 - Philosophia et Praktikos - 」の「躬行 - praktikos - 」から引用。傍らの躬行館の精神を思い、ソフィアテラスと対になるように命名。





1884

④ ドイツ人ルドルフ・レーマン博士に学んだ人々が協力して上京区（現在は中京区）富小路奥川下ルに京都私立独逸薬学校を創立。1886年に別科を薬学科に改編。



ルドルフ・レーマン
Rudolf Lehmann

本学の歴史は、1884（明治17）年、京都府の元留徳ドイツ人教師ルドルフ・レーマン先生（1842～1914）に教えを受けた人々を中心とする18名の塾生の進によって興された京都私立独逸薬学校に起源をもつ。
レーマン先生は日本最初の雑誌『読書』を刊行するなど、形成期の近代日本の教育に多大な貢献をした。



1896

河原町御池の私立京都薬学校生の記念写真。
1896（明治29）年の卒業写真と伝えられる。
当時の卒業式は年2回、卒業生はそれぞれ数人だった。
最前列の人々の前には、天秤や試験管等の実験器具が並べられている。



1898

秋葉町の私立京都薬学校入口。
1898（明治31）年の移転後のまちなみと思われる。
元小学校の土地と建物を買い取って増校された。
冠木門の向こうに井戸が見える。校舎の少し北側には琵琶湖疏水が流れていた。



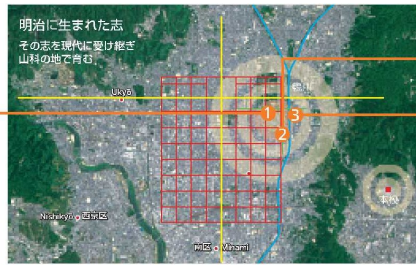
1919

1919（大正8）年、秋葉町にあった私立京都薬学校が廃され、新たに京都薬学専門学校が誕生した。
写真は、1924年の新校舎増築後まもない時期の正門で、鉄扉に校章をあしらった酒桶たくりになっていた。



1926

秋葉町時代の京都薬学専門学校内の製薬化学実習室における実習風景。1926（大正15）年の卒業アルバムから。この頃には、卒業生数も100名を超えようになっていた。そのためか実習室も窮乏そうに見える。



1892

薬学科を廃し、私立京都薬学校を設立。



1919

専門学校令により京都薬学専門学校を設立。
私立京都薬学校を廃止。



1932

1932（昭和7）年9月に山科へ移転した京都薬学専門学校の本館校舎。11月に記念式典と記念祭が挙行された。
写真はその際に作成されたと思われる「新築落成記念絵葉書」9枚のなかの1枚。今の薬学部あたり。



1949

戦後の1949（昭和24）年、京都薬科大学が誕生。その後、大学昇格記念増築を実施。さらに1964年度の創立20周年を記念した増築工事により東・北・中の3校舎が完成した。写真は中校舎（6号館）と旧図書館。



1973

1973（昭和48）年、翌年の創立90周年を記念し、釜崎工場跡地を買収した南校地に、教養課程の建物をとして南校舎が竣工。その後、南校地には生命薬学研究所（現5棟）・創薬科学フロンティア研究センターが新設された。



2005

2005（平成17）年の薬学部完成により、翌年からの6年制移行の準備ができた。2004年には創立120周年記念事業の一環として記念式典・祝賀会が開催された。
薬学部は本館、1号館及び7号館を取壊した跡地に建設された。

2011年度「京薬祭」の開催に向けて

2011年11月4日（金）から6日（日）まで開催されます京薬祭の成功に向けて、すでに実行委員会が活動を開始しています。

現在、幹部を中心に、実行委員スタッフが知恵を出し、より有意義な学園祭にするために検討を重ねております。学校行事としての京薬祭が盛況となりますよう、皆様の温かいご支援をお願いいたします。

【2011年度実行委員 幹部】

実行委員長	3年次生	福田 智哉	(バドミントン部)
副実行委員長	3年次生	原田 弘毅	(写真部)
文化部長	3年次生	廣川麻衣子	(軽音楽部)
書記長	3年次生	天野 寿洋	(バスケットボール部)
会計部長	3年次生	和田茉依実	(バスケットボール部)
庶務部長	2年次生	樋口 裕	(準硬式野球部)

《実行委員長より一言》

新しく1年次生も入り、今年度の実行委員会も盛り上がってきました。1年次生を見ていると、自分たちにもこのような初々しい時期があったのだなという懐かしい気持ちになる半面、これからは自分たちがしっかりしなければならないという責任を強く感じます。

実行委員会は毎年1、2年次生が企画を考え、3年次生が裏方として学園祭の運営にまわります。僕たち幹部を中心に話し合い、皆で協力しよりよい学園祭を作ろうと試行錯誤を繰り返しています。

今年になり、テラスや庭、ステージなどが新しく作られ生まれ変わった大学で、今までにないような新しい学園祭を作ることが実行委員一同の目標です。

これからも精進していきますので、皆様の温かいご支援をお願いいたします。

2011年度 京薬祭実行委員会
実行委員長 福田 智哉

「卒業生からのメッセージ」

縁（えん）を大切に



岩橋 知子

2001年 学部卒業
(生化学教室)
2003年 修士課程修了
(臨床薬理学教室)
パレクセル・
インターナショナル株式会社
開発部 グループリーダー

早いもので、社会人9年目を迎えました。入社してから現在まで開発部でモニタリング業務を担当しております。最初はモニターとして実際に医療機関へ赴き、治験実施の依頼から症例報告書（治験に参加された患者様のデータを収集した報告書）を回収する業務までを担当しておりましたが、現在はグループリーダーとしてチームをまとめ、モニターを教育・指導する業務を行っております。

モニタリングは医薬品・医療機器の開発を担う業務ですので、薬学の基礎知識はもちろん必要ですが、私はそれ以上に人とのコミュニケーション能力が重要だと考えています。モニタリングは、医療機関のドクターやスタッフの方々と密接に関わり合うことで成立する仕事です。さらに、私たちCROはクライアント（医薬品・医療機器会社）から治験を受託する立場ですので、クライアントとの密な連携も非常に重要です。私自身もこの仕事を通じてドクター

やクライアントとお話をさせていただく機会が多く、自身の知識不足を痛感することもあります。ドクターから臨床に関する専門的なお話を教えていただけることもあり、とても貴重な経験だと感じています。

コミュニケーションは普段の生活で何気なく積み重ねられていくものだと思いますが、あらゆる仕事に共通して重要です。全ての出会いは縁だと思いますので、学生の皆さんも1つ1つの縁を大切にしながら毎日を過ごしてもらえればと思います。

最後に、私自身が日々心がけていることを2つ挙げてみます。

1つ目は、「自分の思考は現実化すると信じること」です。“こうなりたい！”と強く願うことは自分を動かすパワーになりますし、きっと良い結果に繋がります。社会では壁にぶつかって落ち込んだりネガティブな気持ちになってしまうことも多々ありますが、常に理想の自分をイメージして、それに少しでも近づけるようにポジティブな気持ちで毎日を楽しむことが大事だと思います。

2つ目は、「仲間を大切に、良い雰囲気作りを心がけること」です。私たちの生活は（もちろん仕事も）、いつも仲間に支えられています。そして、“雰囲気”はもともと存在するものではなく、私たち1人1人の個性が生み出すものだと思います。良い仲間に関われて良い雰囲気で毎日を過ごすことができれば幸せですね。

皆さんの学生生活やこれからの社会人生活が充実したものでありますように。

(注) CRO：医薬品開発業務受託機関。製薬企業が行う医薬品開発に関する様々な業務を受託する機関

学校法人京都薬科大学平成22年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、5月20日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

当年度に実施した主な施設整備事業では、躬行館の完成により全講義が本校地で行われることになり、6年制の完成年度までに自転車の収容台数を増加させるべく2010年11月に本校地北側に立体駐輪場を建設しました。この駐輪場には、1階432台、2階256台の合計688台の自転車が収納でき、6年制完成後も学生の要望には充分対応できる規模となっています。

また、本校地の緑化計画に基づき、愛学館北側に中央庭園を整備しました。中央部にはシンボルツリーとしてアメリカフウを植樹し、その周囲には京都薬科大学の記念写真と歴史を記した8枚のプレートを配しています。庭園の各所にはベンチを配置するなど憩いの場として利用されていますが、この庭園の特徴として、庭園西側には談話、読書、屋外でのセミナー、食事のほか、京薬祭のステージとして使用できる円形テラス「プラクティテラス」を、東側には談話、読書及び勉強用として使用できる角型テラス「ソフィアテラス」を設置しています。

更に、旧8号館を改修し、一般教育分野等の教員をはじめ、学生実習支援センター、生涯教育センター及び京薬会が入居しました。また、学生のクラブ室及び男子ロッカー室を設けたことにより、教員と学生が共に「心」を育てあう場に、との願いをこめて、建物名称を旧8号館から「育心館」に変更されました。

その他の主な事業としましては、2010年度は薬学6年制が始まって初めての病院・薬局実務実習が行われ、本学では337名の5年次生が年間3期に分かれて、全国の病院及び保険薬局においてそれぞれ11週間の医療現場での実務実習を行いました。

また、大学を挙げて若手研究者の研究活動を積極的に支援することを目的として、1999年に運用を休止していた科学振興基金による研究助成を再開し、先端的研究に取り組んでいる7名の本学若手教員に1人当たり年額100万円を配分しました。なお、この研究助成制度の更なる充実を図るため、理事会及び評議員会において、第3号基本金である科学振興基金の組入れ計画の変更が承認され、平成27年度（2016年3月）末時点の組入れ目標額が6億円から21億円に変更されました。

平成22年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、入学者数が定員360名に対し402名となったことなどで予算額を上回り3,677

百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より155名減（△6.6%）の2,197名となったことを主因に82百万円と予算を下回りました。寄附金収入は、45百万円と予算額を上回りました。奨学金制度充実のための寄附募集に多数の方からご賛同いただき、特別寄附は予算額を8百万円上回りましたが、研究助成を目的とした一般寄附金が減少しています。補助金収入は、経常費補助金を中心に359百万円で予算額を大きく下回りました。特に、特別補助金が94百万円予算を下回ったことが大きな要因です。資産運用収入は、100百万円で予算額を上回りました。資産売却収入は、国債の満期償還金が中心でほぼ予算どおりです。事業収入は、予算を2百万円下回り57百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教育職員の補充が遅れたこともあり、1,598百万円と予算額を大きく下回りました。教育研究経費は、補助事業の減少及び規模縮小などから、予算額を下回り1,073百万円となりました。管理経費支出は、経常費補助金自主的返還などにより予算を18百万円上回りました。施設関係支出では、立体駐輪場の建設、旧8号館（育心館）の改修、中央庭園の整備などで、656百万円となりました。設備関係支出では、教育研究用機器備品、実習用機器、中央庭園用机・椅子などの整備で155百万円となり予算額を下回りました。資産運用支出は5,046百万円で、国債の満期償還金及び運用収入、国債の買替え及び新規購入のほか、前述でも触れていますが、科学振興基金に500百万円を積み増しています。

以上により、次年度繰越支払資金は、2,555百万円と予算を下回りました。

消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、学生生徒等納付金、雑収入等が予算を上回りましたが、補助金収入などが減少して予算を13百万円下回り4,419百万円となりました。また、基本金の組入れは、当年度の施設設備関係支出は811百万円でしたが、耐用年数を経過した高額の教育研究用機器備品の廃棄などから第1号基本金組入額は350百万円となりました。第3号基本金には奨学基金に100百万円、科学振興基金に600百万円を組入れ、計1,066百万円の基本金組入れとなりました。この結果、消費収入の部合計は、3,353百万円となりました。

一方、支出においては、人件費及び教育研究経費の減少および6号館・図書館取壊しに伴う資産処分差額（損）240百万円がありますが、予算を216百万円下回り、消費支出の部合計は3,877百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は524百万円の支出超過になりましたが、前年度からの消費収入超過

額1,016百万円があったため、翌年度に繰越す消費収支差額は492百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が541百万円となり、帰属収支差額比率は、12.3%となりました。

貸借対照表（表3）

有形固定資産は、立体駐輪場建設及び育心館改修などに伴う増から6号館・図書館取壊し及び教育研究用機器備品の廃棄などに伴う減を差引きした結果、前年比206百万円減の14,232百万円になりました。その他の固定資産は、第3号基本金引当資産に700百万円の組入れ、減価償却引当資産に500百万円の積み増しを行い、前年比1,302百万円増の11,052百万円とな

りました。また、流動資産は、第3号基本金に500百万円の積み増しを行ったことなどから、現預金が622百万円減少し、前年比651百万円減の2,657百万円となりました。その結果、資産の部合計は27,942百万円となり、444百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債979百万円は全額退職給与引当金です。流動負債743百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,723百万円となっています。

基本金の部は、第3号基本金には奨学金制度及び研究助成制度の充実を図るため700百万円を組入れています。その結果、基本金の部合計は25,727百万円となり、前年比1,066百万円の増加となっています。

消費収支差額の部は、492百万円の黒字となりました。

表1 資金収支計算書（総括表）

平成22年4月1日～平成23年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,613,800	3,677,432	△ 63,632	人件費支出	1,703,000	1,598,013	104,986
手数料収入	88,400	82,100	6,299	教育研究経費支出	1,258,600	1,073,670	184,929
寄付金収入	38,000	45,517	△ 7,517	管理経費支出	187,500	205,634	△ 18,134
補助金収入	454,900	359,169	95,730	施設関係支出	650,900	656,050	△ 5,150
資産運用収入	96,600	100,777	△ 4,177	設備関係支出	233,000	155,363	77,636
資産売却収入	1,498,700	1,498,840	△ 140	資産運用支出	4,529,600	5,046,904	△ 517,304
事業収入	60,000	57,597	2,402	その他の支出	580,500	656,613	△ 76,113
雑収入	72,000	91,126	△ 19,126	予備費	20,000		20,000
前受金収入	632,500	613,751	18,748	資金支出調整勘定	△ 127,000	△ 162,281	35,281
その他の収入	2,794,100	2,804,731	△ 10,631	次年度繰越支払資金	2,709,600	2,555,689	153,910
資金収入調整勘定	△ 699,800	△ 723,474	23,674				
前年度繰越支払資金	3,096,500	3,178,089	△ 81,589				
収入の部合計	11,745,700	11,785,659	△ 39,959	支出の部合計	11,745,700	11,785,659	△ 39,959

表2 消費収支計算書（総括表）

平成21年4月1日～平成22年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,613,800	3,677,432	△ 63,632	人件費	1,683,700	1,589,232	94,467
手数料	88,400	82,100	6,299	教育研究経費	1,907,600	1,754,040	153,559
寄付金	48,000	51,465	△ 3,465	管理経費	263,500	294,249	△ 30,749
補助金	454,900	359,169	95,730	資産処分差額	220,000	240,452	△ 20,452
資産運用収入	96,600	100,777	△ 4,177	（予備費）	20,000		20,000
資産売却差額	0	140	△ 140				
事業収入	60,000	57,597	2,402	消費支出の部合計	4,094,800	3,877,975	216,824
雑収入	72,000	91,126	△ 19,126	当年度消費収支差額	△ 560,200	△ 524,305	
				前年度繰越消費収支差額	1,000,400	1,016,615	
帰属収入合計	4,433,700	4,419,808	13,891	基本金取崩額	0	0	
基本金組入額合計	△ 899,100	△ 1,066,139	167,039	翌年度繰越消費収支差額	440,200	492,309	
消費収入の部合計	3,534,600	3,353,669	180,930				

表3 貸借対照表（総括表）

平成22年3月31日現在（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	25,285,008	24,189,050	1,095,958	固定負債	979,876	988,657	△ 8,781
有形固定資産	14,232,378	14,438,420	△ 206,042	流動負債	743,345	831,682	△ 88,336
その他の固定資産	11,052,630	9,750,630	1,302,000	負債の部合計	1,723,221	1,820,340	△ 97,118
流動資産	2,657,842	3,309,084	△ 651,242	基本金の部			
現金預金	2,555,689	3,178,089	△ 622,400	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	102,152	130,994	△ 28,841	第1号基本金	21,503,360	21,153,114	350,246
				第2号基本金	1,330,851	1,330,450	400
				第3号基本金	2,665,107	1,949,614	715,492
				第4号基本金	228,000	228,000	0
				基本金の部合計	25,727,319	24,661,179	1,066,139
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	492,309	1,016,615	△ 524,305
				翌年度繰越消費支出超過額			
				消費収支差額の部合計	492,309	1,016,615	△ 524,305
資産の部合計	27,942,851	27,498,135	444,715	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,942,851	27,498,135	444,715

（注）減価償却の累計額の合計額 7,261,470千円
表1、表2、表3とも単位未満切捨て

2010年度授業評価集計結果の報告

学生による授業評価は授業の改善を目的とし、学期ごとに実施している。授業アンケートは2002年度から実施しており、2009年度からは、全学生を対象に実施した。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師としている。

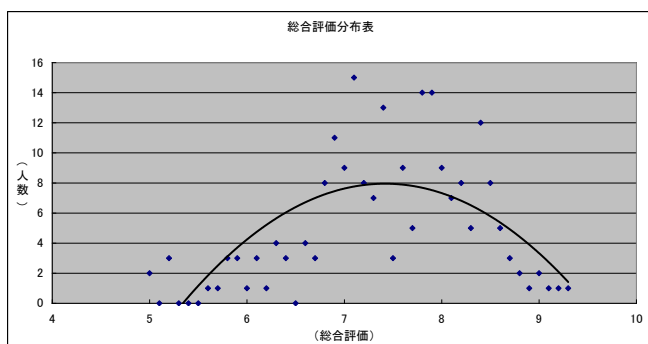
集計結果を受け、教員は授業改善計画として「リフレクション・ペーパー」を作成し、全教員分を冊子にまとめ、図書館にて公開した。学生からの意見を受けてのフィードバックとして、リフレクション・ペーパーを公開することで、今後の授業改善が積極的に進むことが期待される。

集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告する。

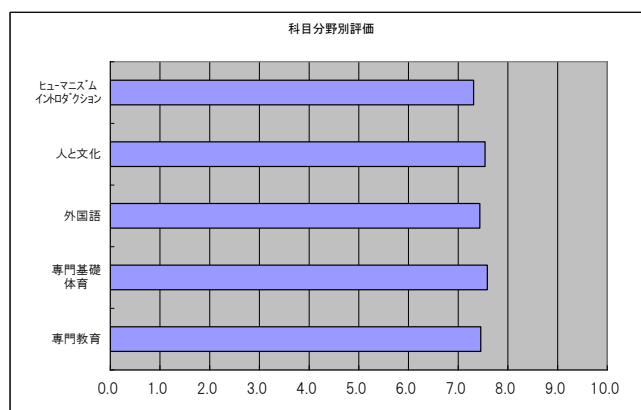
設問項目別授業評価の全体平均

設 問	2010年度 評価 (5段階)
Q1.話し方が明瞭で聞き取りやすかった。	4.7
Q2.説明がていねいでわかりやすかった。	4.1
Q3.板書、液晶プロジェクターなどが適切でわかりやすかった。	4.0
Q4.教科書・参考書やプリントなどの教材が適切に使用されていた。	3.9
Q5.授業はシラバスに沿って進められた。	3.8
Q6.重要事項を強調して説明していた。	4.0
Q7.よく準備され、熱意が感じられた。	4.0
Q8.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行なわれるように工夫されていた。	4.0
Q9.授業に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.0
Q10.この授業内容に興味を持つようになった。	3.9
Q11.教員は学生の質問や意見に対して適切に対応した。	3.8
項目平均	4.0

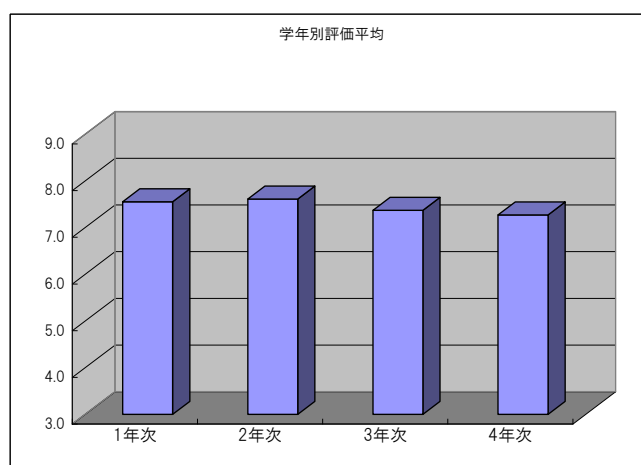
教員個人別評価の分布は、平均値7.46であった。



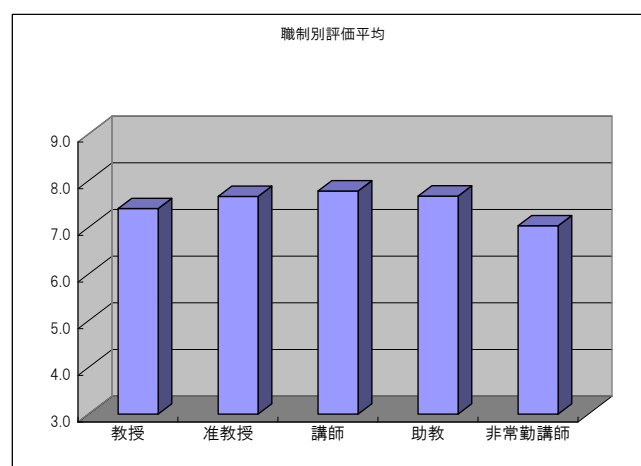
総合評価と授業科目分野区分との関係は、ヒューマニズムイントロダクションが他に比べやや低かった。



学年別平均は、低学年で比較的高い評価となった。



次に職制との関係では、講師の評価が他よりやや高く評価されている。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生へ御礼申し上げます。また、評価対象となった教員におかれては、アンケート結果を参考に、更なる授業改善につなげていただければ幸いです。

2011年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

シラバスにも掲載されているように、2011年度の試験日程は【表1】のとおりです。

各学年とも進級・卒業要件をよく確認するようにしてください。また最近、試験日時を間違えるケースが多々見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

選択科目（1年次・人と文化、2年次・選択外国語）の不合格科目は、再試験手続をしなかった場合には放棄とみなし、翌年度の前年次・前々年次科目再試験を受験することができなくなります。また、今年度中は、平均点に算入されることになります。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2011	4年次生 前期試験	7月19日(火)～ 7月26日(火)	8月24日(水)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3、6年次生 前期試験	7月21日(木)～ 7月29日(金)		
	2～4年次生 前年次・ 前々年次科目再試験	9月1日(木)～ 9月6日(火)	10月中旬に配付する 成績通知書に記載	4月21日(木)・22日(金)
	1～4、6年次生 前期科目再試験	9月7日(水)～ 9月13日(火)	10月中旬に配付する 成績通知書に記載	前期試験の再試験受験 手続期間:8/25(木)・26(金)
	4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験(予定)	12月17日(土)・18日(日) (予定)	発表方法については 掲示等でお知らせします	手続方法については 掲示等でお知らせします
2012	6年次生 薬学特別演習本試験	1月10日(火)・11日(水)	1月20日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月12日(木)～ 1月18日(水)	1月27日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月20日(金)～ 1月30日(月)	2月13日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験 CBT本試験(予定)	1月24日(火)・25日(水) (予定) ※いずれか1日を受験	発表方法については 掲示等でお知らせします	手続方法については 掲示等でお知らせします
	6年次生 薬学特別演習再試験	2月6日(月)・7日(火)	卒業査定会まで発表しません	薬学特別演習本試験の再試験受験 手続期間:1/23(月)・24(火)
	4年次生 後期科目再試験	2月6日(月)～2月9日(木)	2月16日(木)に発表予定 (Web公開)	後期試験の再試験受験 手続期間:1/30(月)・31(火)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月23日(木)～ 3月1日(木)	進級査定会まで発表しません	後期試験の再試験受験 手続期間:2/14(火)・15(水)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ	2月23日(木)～ 3月1日(木)	進級査定会まで発表しません	【前期科目】 再試験Ⅱ 受験 手続期間:10/26(水)・27(木) 【後期科目】 再試験Ⅱ 受験 手続期間:2/17(金)・20(月)

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2012	4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験(予定)	3月5日(月) (予定)	進級査定会まで発表しません	手続方法については 掲示等でお知らせします
	4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験(予定)	3月8日(木) (予定)		

《成績通知・合格発表》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～6年次生は分野主任から受け取ってください。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年	10月6日(木)～ 10月13日(木)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	6年次	2月22日(水)～ (卒業査定会後配付します)	—
	1～5年次	3月22日(木)～ (進級査定会後配付します)	4月中旬～下旬

クラブだより

管弦学部

私たち管弦楽部は、24人の新1年次生を迎え、12月に行われる定期演奏会に向け、新しくできた奏楽館で日々練習に励んでいます。

今年度の活動実績と今後の予定

4/2 入学式での演奏

8/9～8/15 夏合宿(北志賀)にて

11/4～11/6 学祭での演奏

12/10 第39回定期演奏会

開場：18:00 / 開演 18:30

場所：文化パーク城陽プラムホール

曲目：歌劇「ロザムンデ」序曲

バレエ音楽「シルヴィア」より

ベートーヴェン交響曲第7番

その他、アンサンブル大会などクラブ内の行事を企画したりと、楽しく充実した活動をしています。

管弦楽部についての詳細は、こちらのHPへ。

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/index.html>

写真部

月に1度、みんなで京都や奈良を中心に関西圏で撮影会を行います。夏には合宿を開き、普段の活動よりも遠くまで出かけて撮影をしています。暗室での現像や白黒印刷も活動の楽しみの一つです。また、京葉祭では個人で撮影した作品や、活動の様子などの発表の場を設けています。毎日の生活の中から“自分の作品を見てもらうために”と工夫を凝らした作品づくりに励んでいます。

卓球部

＜昨年度活動実績＞

関西薬学生大会	女子	団体：3位 個人：優勝 ダブルス：優勝
	男子	団体：3位 ダブルス：ベスト8
全国薬学生大会	男女	混合ダブルス：3位
	女子	個人3位 ダブルス：ベスト8 団体：ベスト8

＜今後の予定＞

6月	四葉
8月	全国薬学生大会
11月	四葉
3月	西日本医歯薬大会

陸上競技部

2011年の活動実績

5月3日に全日本薬学生対抗陸上競技大会がありました。

男子	走幅跳・4×400mリレー	それぞれ2位
	400m・800m・110mハードル	それぞれ3位
女子	100m・100mハードル	それぞれ1位
	200m	2位
	走幅跳	1位、2位

女子トラックの部 2位

女子総合の部 3位

男女総合の部 3位

陸上競技部は昼練(月～金)と夕練(月・木)を行っており、毎日練習に励んでいます。

2012年度 学部入学試験概要

2012年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1. 入学定員・募集人員・入学試験日程

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願期間	2011年11月 1日(火) ～ 2011年11月 8日(火) 必着		2012年1月 5日(木) ～ 2012年1月13日(金) 当日消印有効	2012年1月 5日(木) ～ 2012年1月26日(木) 当日消印有効	2012年2月23日(木) ～ 2012年3月 7日(水) 当日消印有効
試 験 日	2011年11月14日(月)	2011年11月19日(土)	2012年1月14日(土) 2012年1月15日(日) 個別試験はなし	2012年2月3日(金)	2012年1月14日(土) 2012年1月15日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2011年11月29日(火)		2012年2月12日(日)	2012年2月11日(祝・土)	2012年3月15日(木)

2. 検査項目等

推薦入学(指定校制)		区分 教科 一般A方式(センター前期)	配点
面接および調査書を基に総合的に判定します。			
推薦入学(一般公募制)	配点		
適性検査 Ⅰ：英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング) Ⅱ：化学(化学Ⅰ)	100 100		
面接	40		
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20		
ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。			

区分 教科	一般B方式(一般入試)		配点
	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
	外国語	英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング)	200
	理 科	化学Ⅰ、化学Ⅱ(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200

区分 教科	一般C方式(センター後期)		配点
	数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
	外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
	理 科	化学Ⅰ(100点を200点に換算する)	200

2012年度大学院薬科学専攻博士前期課程入学選考の概要

2011. 4.

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員		5名		*1:文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む
		若干名	若干名	
募集分野		薬科学専攻 20分野	薬科学専攻 20分野	
出願資格		・ 本学卒業生 ・ 他大学卒業生(他大学卒業見込生を含む) ・ 本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者*1	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)	
出願書類 (通常の書類に追加して出願時に提出する書類)		志願理由書 成績証明書(本学卒業生を除く)	志願理由書 成績証明書 実務実績書	
関係日程	出願期間	2011年7月15日(金) ～ 2011年7月22日(金)		
	試 験	2011年8月24日(水)		
	合格発表	2011年8月31日(水) 午後予定		
	入学手続期限	2011年9月15日(木)入金納付期限 2012年3月23日(金)授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語 (英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	_____	*2: 系 Ⅰ系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野、薬品化学分野、生薬学分野 Ⅱ系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、薬品物理化学分野 Ⅲ系 生命薬科学系 衛生化学分野、公衆衛生学分野、微生物・感染制御学分野、生化学分野、病態生理学分野 Ⅳ系 病態薬科学系 病態生化学分野、薬物治療学分野、臨床薬理学分野、薬理学分野、臨床腫瘍学分野 Ⅴ系 医療薬科学系 薬剤学分野、薬物動態学分野、臨床薬学分野
	薬学専門	Ⅰ～Ⅴ系*2の20問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)	_____	
	小論文他	_____	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	

平成23年度科学研究費補助金 採択状況

学長 乾 賢一

研究資金には毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費補助金」（略して「科研費」と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

今年度は新規で42件申請して13件が採択されました。[新規採択率31.0%]

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は35件、交付予定総額は63,960千円となっています。[退職者、他機関への転出者及び辞退者は除く。他機関からの転入者は含む]

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。研究活動スタート支援は現在申請中です。

平成23年度科学研究費補助金 配当一覧表

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
基盤研究(A)	木曾 良明	薬品化学	分子認識に基づく難病治療薬のデザインと医薬化学研究	8,060	継続(退職)
基盤研究(B)	高田 寛治	薬物動態学	マイクロニードル経皮ワクチン	4,680	継続
"	小暮 健太郎	薬品物理化学	腫瘍組織内奥へ積極侵入可能なワームライクDDSの創製	11,180	新規
基盤研究(C)	上西 潤一	薬化学	1,3-不斉転写を鍵とする分子内SN ² 型環化反応と複素環状天然物の全合成研究	1,430	継続
"	吉川 雅之	生薬学	エジプト産天然薬物を素材としたメタボリックシンドローム予防物質の探索	1,300	"
"	北出 達也	薬品分析学	分子インプリントポリマーを感応素子とした針状微小電位検出型人工免疫センサーの開発	1,040	"
"	長澤 一樹	衛生化学	無刺激及びストレス負荷状態でのP2X7受容体を介した神経-アストロサイト機能連関	1,300	"
"	渡辺 徹志	公衆衛生学	糖尿病モデル系による新規内因性化学発がん要因の探索及びそのリスク評価	910	"
"	小原 幸	臨床薬理学	心疾患におけるミトファジーの病態生理学的意義の検討、および治療への応用	910	"
"	村上 啓寿	生薬学	活性天然物由来ブロープ分子による新規抗がんおよび抗HIV標的蛋白の解明	1,560	"
"	松田 久司	生薬学	アーユルヴェーダ生薬からPPARの発現制御を指標とした生活習慣病改善物質の探索	1,300	"
"	山下 正行	薬品製造学	小員環の歪みエネルギーの解消を基盤とする新規合成反応の開発と天然物合成への展開	1,430	"
"	小関 稔	学生実習支援センター	リサイクル型不斉アミノ化剤による他連続不斉炭素構築法の開発研究	910	"
"	矢野 義孝	臨床薬学教育研究センター	経口投与製剤の臨床薬物動態予測のためのファーマコトキシクス手法の構築	650	"
"	坂根 稔康	薬剤学	亜鉛の吸収と体内動態-吸収型輸送担体ZIPと排泄型輸送担体ZnTとの関係	1,560	"
"	山本 昌	薬剤学	生体分解性マイクロニードルを用いたインクレチンの次世代型経皮吸収製剤の開発	1,430	"
"	赤路 健一	薬品化学	Dアミノ酸を組み込んだ新しい概念に基づく持続性プロテアーゼ阻害剤の開発	910	継続(転入)
"	齋藤 一樹	薬品化学	EGFレセプターの構造特性にもとづくペプチド性阻害薬の設計・探索	1,170	継続(転出)
"	向井 秀仁	薬品化学	タンパク質構造に隠れた生体機能ペプチド「クリプタイド」による生体調節機序の解明	1,430	"
"	木村 徹	学生実習支援センター	薬剤耐性HIVプロテアーゼに対する高活性阻害剤の設計研究	1,300	継続(辞退)
"	細井 信造	薬学教育研究センター	ビナフル型CDブロープを利用した実用的絶対配置決定法の開発とその天然物への応用	1,950	新規
"	奈邊 健	薬理学	好中球をターゲットとした重症喘息と慢性閉塞性肺疾患(COPD)の制御に関する研究	1,950	"
"	山岸 伸行	生化学分野	ポリグルタミン病における小胞体分子シャペロン発現調節機構の解析と治療への応用	1,300	"
"	後藤 直正	微生物・感染制御学	緑膿菌の腸管経由トランスロケーションの統合的解析	2,210	"
"	安井 裕之	代謝分析学	GPR39作動性のPdx-1発現により膵β細胞を保護する抗糖尿病亜鉛医薬品の開発	2,210	"
"	浜田 芳男	薬品化学	アルツハイマー病克服のための統合的創薬研究	1,820	新規(転出)
挑戦的萌芽研究	橋本 貴美子	薬化学	腹菌類ニセショウ口属の分類法と毒性に関する研究	1,170	継続

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
若手研究(B)	濱 進	薬品物理化学	がん微小環境応答性の細胞内取り込み促進型ナノ粒子の構築および抗腫瘍作用の検討	1,040	継続
"	藤井 正徳	薬理学	ヘアレスマウスを用いたアトピー性掻痒モデルの開発	1,560	"
"	河井 伸之	薬化学	ルイス酸触媒による直接的アミンのアリル化反応の開発	1,820	"
"	高田 和幸	病態生理学	ミクログリアのニコチン性受容体を標的とした新規アルツハイマー病治療戦略の開発	1,820	"
"	石原 慶一	病態生化学	ダウン症候群モデルマウスの記憶学習障害における酸化ストレスおよび炎症反応の役割	1,300	"
"	相馬 洋平	薬品化学	アミロイドβ ペプチドの病態機構解明と凝集阻害剤の創製	1,690	"
"	西田 健太郎	衛生化学	味細胞におけるアデノシンの生理的役割の解明	780	"
"	勝見 英正	薬剤学	癌骨転移治療薬ゾレドロンートの次世代型経皮吸収剤の創製と治療への応用	2,600	"
"	皆川 周	微生物・感染制御学	緑膿菌の黄色ブドウ球菌増殖抑制機構による菌交代現象の解析	1,560	新規
"	中村 誠宏	生薬学	メディスナルフラワーを素材とした抗老化関連物質の探索	1,690	"
"	辻本 雅之	臨床薬学	腎不全患者で頻発する薬剤性横紋筋融解症の発症機構の解明と薬物適正使用法の確立	1,430	"
"	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	心腎・脳腎連関を考慮した慢性腎臓病治療におけるエリスロポイエチンの有用性の検討	1,690	"
"	土谷 博之	薬品物理化学	レチノイン酸による肝臓インスリン感受性増強機構の解明と創薬開発への応用	1,690	"
"	日高 興士	薬品化学	HIVおよびHTLVプロテアーゼを標的とした疑似対称型阻害剤の開発研究	2,340	新規(転出)

Library News

図書館

開館日程

2011年 7月

2011年 8月

2011年 9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

休館
9:00-20:00
9:00-17:00
10:00-17:00
休館=館内整備

マイライブラリ新機能！

マイライブラリから、あなたの貸出履歴が確認できるようになりました。

2010年度以降の借りた日と資料のタイトルが確認できます。

マイライブラリにログインして

「操作メニュー」→「履歴」→「借りた資料」

から確認してください。

テーマ展示

第5弾のテーマは、「書ける論文！わかる著作権！！」です。分かりやすく正しく内容を伝える論文やレポートの書き方、書籍やWebなどから得た情報を利用するときのルール（著作権）に関する資料を集めました。5月から6月末まで展示しています。展示中の資料はパンフレットを除き、すべて貸出可能ですので、ぜひ、ご覧ください。

お 知 ら せ

教育後援会からのお知らせ

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。学生の皆さんには「病院・薬局へ行く前に」の授業に早速活用することができ、大変喜ばれています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご連絡させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

このたびの東日本大震災に被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。被災地の1日でも早い復興をお祈りし、教育後援会でもNHKを通じて10万円の義援金を寄付いたしました。

役 員

退任

理事長 田村 正昭 (2011. 5. 29付)

就任

理事長 武田 禮二 (任期 2011. 5. 30～2014. 5. 29)

人 事

任 命

研究科長	教 授	竹内 孝治
教務部長	教 授	後藤 直正
学生部長	教 授	北出 達也
進路支援部長	教 授	安井 裕之
図書館長	教 授	中田 徹男
創薬科学フロンティア研究センター長	教 授	吉川 雅之
共同利用機器センター長	教 授	吉川 雅之
薬用植物園長	教 授	吉川 雅之
臨床薬学教育研究センター長	教 授	高山 明

(以上 任期：2011. 5. 1～2013. 3. 31)

採 用

生命薬科学系細胞生物学分野 教 授 藤室 雅弘
薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター 講 師 本橋 秀之
(以上 2011. 7. 1付)

事務局庶務課 契約事務職員 高木 泉
(契約期間：2011. 5. 1～2012. 4. 30)

名誉教授の称号授与

2011. 4. 1 付

谷口 隆之

京薬会だより

<2011年度 京薬会代議員総会>

2011年度代議員総会が4月23日(土)午後1時半より愛学ホールで開催されました。また、午前中には、総会に先立ち支部長会および年次代議員会が行われ、支部総会の開催予定、京薬会活動(卒業生の同窓会活動)について熱心に討議されました。代議員総会に於いて、西野武志会長および新役員(22名)が満場一致で承認(任期3年)され、京薬会新体制がスタートしました。

<2011年度卒後教育講座>

2011年度・卒後教育講座は、大学キャンパスで開講する講座(卒後教育A)とともに、インターネット配信による講座(卒後教育B)を開講します。詳細については、京薬会ホームページ(<http://www.kpu-aa.com/>)・薬業紙(薬事日報等)で案内します。

<京薬会ホームページ>

京薬会ホームページ(<http://www.kpu-aa.com/>)が、2011年2月より一新されました。会員および本学学生の皆様には、ログインページにある登録フォームに必要事項を記入後送信して、ID・パスワードの配信を受けてアクセスしてください。また、会員のページ中にクラブ・同窓会のページ、研究室のページなどが設置可能です。是非ともご利用下さい。

<奨学金の贈呈>

京薬会より、京都薬科大学に奨学金基金として前年に引き続き、2011年度も100万円が寄付贈呈されることが、先日開催された代議員総会で承認されました。

<学部新入生に分子モデル配布>

京薬会では学部新入生全員に入学祝として小型分子モデルを贈呈致しました。もし配布漏れがありましたら京薬会事務室までお申し出下さい。

<ホームカミングデー開催予定>

京薬会では、本年度の京薬祭(11月4日～11月6日)の開催期間中に、在学生と卒業生との交流の場としてホームカミングデーを企画しております。昨年初めて開催され、卒業生の里帰り、新校舎の見学、旧教授・同僚との歓談、さらには若い現役学生との交流などいろいろな場が持てました。本年度も現役学生さんからの提案を取り入れて企画させていただきますので、どしどしご意見ご提案をお寄せください。

東日本大震災の被災者への支援について

このたびの東日本大震災で、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますと共に、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

京都薬科大学では、3月14日（月）から東日本大震災の被災者への募金活動を行って参りました。3月25日（金）までに集まった本学職員・学生有志による募金1,335,414円全額を東日本大震災の被災者に対する義援金として、3月30日（水）に、日本赤十字社京都府支部に寄附いたしました。多くの皆様からのご協力に対して、心から御礼申し上げます。

本学では、被災者を継続的に支援するべく、現在も募金活動を行っております。皆様からの更なるご協力をお願い申し上げます。

また本学では、節電対策として、昼間の廊下の照明は消灯し、教員の各部屋および事務室の蛍光灯を一部取り外すなど、積極的に節電を行っております。

被災地の日も早い復興をお祈りし、日本の元気を取り戻すため、微力ながら京都薬科大学も貢献して参りたいと存じます。



左：日本赤十字社京都府支部事務局長
中央：田村正昭前理事長
右：半澤恵子さん（本学6年次生 宮城県出身）

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2011年3月～5月に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等（卒業年次順）>

石本 博美(昭18)	山本 幸彦(昭30)	矢野紀美子(昭37)	内藤 栄美(昭45)	岩井 隆也(平01)
松本 蒼平(昭22)	片山 勝(昭32)	小柳 博義(昭39)	イゼリ和代(昭47)	尾崎 朋久(平11)
樫井謙太郎(昭23)	木村賀代子(昭32)	六車 昭美(昭39)	山田 光子(昭48)	佐野 友則(平12)
松本 恒行(昭24)	松岡 哲夫(昭32)	加納 亜子(昭40)	前川由美子(昭49)	熊澤 里美(平14)
松島 早苗(昭26)	中原 弘郎(昭33)	前田トシ子(昭40)	匿名希望 (昭51)	高谷 典宏(平15)
山脇 忠昭(昭28)	森本 幸子(昭33)	浅野紗智子(昭41)	三上 正(昭52)	表 詩乃(平22)
野口 昭(昭29)	岡崎 明生(昭34)	久米 和子(昭43)	平野 隆(昭55)	
菊地サチ子(昭30)	森田 康子(昭34)	泉田 豊美(昭45)	高美 時郎(昭56)	
藤本千代子(昭30)	安田 晃三(昭34)	稲垣 美幸(昭45)	高美 美鶴(昭56)	

<企業・団体・一般>

匿名希望 1社

<法人役員・評議員・職員（五十音順）>

秋澤 雅男(教授)	久米 光(評議員)	土岐 隆信(評議員)	宮川 克之(評議員)
乾 賢一(学長)	後藤 直正(副学長)	畑山 巧(教授)	村山猪一郎(監事)
入江 一充(監事)	竹内 孝治(副学長)	松井 常孝(評議員)	山下 正行(教授)
加納 良章(主事)	武田 禮二(理事)	宮秋 昭(理事)	

<元教授>

金澤 治男 谷口 隆之 野出 學 藤本 貞毅

※ 法人役員は2011年5月29日、評議員は2011年5月15日までの任期の者を掲載

(2011年5月31日現在)